

「安心・安全」な学びの場を目指して

聖和学園短期大学 次長 小松 光憲

聖和学園短期大学は、昭和 26 年に開学され、昭和 63 年に若林区木ノ下から現在の泉区南中山に移転しました。本学では「キャリア開発総合学科」と「保育学科」の 2 つの学科を設置し、多彩な人材を輩出し続けていくことで、地域社会に貢献していきたいと考えております。

さて、本学では学生に対して質の高い教育を提供していくことで、学生には充実した大学生生活を送ってほしいと考えていますが、その大前提として「安心・安全」を備えていなければなりません。本学では毎年 2 度の避難訓練を実施しています。今年も 6 月に地震が発生したという設定で、また 10 月には火災が発生したという設定で訓練を実施しました。各教室から普段は通らない場所を通してグラウンドに避難しますが、学生からは「こんなところから外に出られるんだ」などという感想も聞かれ、それなりの大きさの建物なので建物の構造を知ってもらうことは有効な防災教育と考えております。また、入学時には本学で制作した災害対応マニュアルを配付し、周知に努めているとともに、震災発生時に対応するためにメールを使った安否確認システムを導入しており、2011 年の東日本大震災の際にも安否確認に活用しました。

東日本大震災では建物には大きな被害もなく、書架や下足箱等の転倒もありませんでした。図書館では、多くの本が床に落下していましたが、書架の転倒はありませんでした。地

震発生時が春休み期間中ということで、学生が校内にほとんどいませんでしたが、仮に学生がいたとしても、書架の転倒がなかったことで惨事は防げたのかなと思っております。書架の転倒がなかったことについてですが、実は地震発生の数年前に転倒防止の対策を施していました。私事ではありますが、2008 年 6 月に発生した岩手宮城内陸地震で、私は友人を亡くしています。本好きのその友人の家に何度かお邪魔したことがあるのですが、壁四方一面に本棚があり、本がびっしり並んでいました。地震発生の際に自宅にいた友人は倒れてきた本棚・本の下敷きになって亡くなったそうです。この件を当時の上司（防災担当課長でもありました）にお話ししました。大学というところは図書館はもちろんですが、先生方一人ひとりの部屋に書架があって、たくさん本が並んで置いています。当時の上司であった担当課長は直ちに書架等の転倒防止策を講じ、結果的に東日本大震災時に転倒を防ぐことができました。防災に関しては、思い立ったら（できることであれば）すぐに策を講じることが重要だということに身に沁みて感じました。

完全な防災体制というのはもしかしたら難しいことかもしれませんが、気付いたことから一つひとつ対応していくことで、これからも「安心・安全」な教育研究活動の場を提供し続けていきたいと考えております。

